

令和5年度公立那賀病院経営強化プラン点検・評価について

1、総論

令和5年度決算にて経常収支比率100.8%であり、プラン経営指標数値を上回る結果となっている。今後の課題として常勤医師が不在の診療科の医師確保がある。医師不足、偏在の問題は病院内部の努力だけでは改善が困難な部分もあるが、派遣元への働きかけなどの継続的な取組が求められる。

今後はプランにある項目、数値目標などを基準として、安定した運営に向けた努力が求められる。

2、プラン項目進捗状況

項目	主に取り組んだ内容			
(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	機能分化、連携強化として当院がプランに記載したハイケアユニット病床（高度急性期病床）3床の整備に向けて地域医療構想会議においての説明を行い合意を得ている。院内においては整備に向けて設備面や人員面などの準備を進め、令和6年度において開始が出来る予定となっている。また当院は地域の基幹病院として新型コロナウイルス感染症やがん診療対応、地域連携なども進めている。病院ホームページのリニューアルも実施しており分かりやすい情報発信につなげている。			
数値目標項目	令和5年度プラン数値	令和5年度実績分	進捗確認	備考
救急患者数（人）	2,190	2,227	○	救急車受入れ数
手術件数（件）	1,640	1,651	○	
在宅復帰率（%）	92.0	94.1	○	
紹介率（%）	56.5	66.3	○	
逆紹介率（%）	62.0	67.4	○	
臨床研修医の受入数（人）	30.0	28.0	×	
(2) 医師・看護師等の働き方改革	医師確保について、常勤医師総数においては減少していないが、循環器科、耳鼻科において常勤医師がいなくなり応援医師にてカバーする状況となっている。人員の確保に向けて派遣元の大学病院に積極的な働きかけを行い現在も継続している。看護師は概ね希望人数を採用することが出来ている。 令和6年度から始まる医師の働き方改革に向けて、医師の労働状態の調査を実施し、基本的な水準であるA水準（年間の時間外・休日時間外労働の上限960時間）となることを確認している。			
(3) 経営形態の見直し	現状維持にて運営している			
(4) 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組	新型コロナウイルス感染症への対応は令和5年度において、5類感染症への移行や病床確保の体制の変更などもあったので病院として状況に応じた対応をしている。新型コロナウイルス感染症の対応期間を通じて、感染症病棟や一般病棟などの整備を実施しているため、これからの新興感染症にも対応しやすい体制となっている。			
(5) 施設・設備の最適化	病院本館建物は建築後20年以上経過していることもあり、院内常駐の担当などに確認しながら設備の更新等を実施しており、令和5年度においては無停電電源装置などの更新を実施している。またデジタル化への対応としてマイナンバーカードの利用促進やサイバーセキュリティ関連の研修への参加などを実施している。			
(6) 経営の効率化	費用の中で大きな割合を占める薬品費などは全国のベンチマーク数値等を活用し、価格交渉などを実施している。また各種診療データの分析などを行い適正な請求業務により収入の確保につなげている。			
数値目標項目	令和5年度プラン数値	令和5年度実績分	進捗確認	備考
経常収支比率（%）	100.2	100.8	○	
医業収支比率（%）	89.8	91.2	○	
修正医業収支比率（%）	87.6	89.1	○	
材料費の対医業収益比率（%）	26.4	27.9	×	高額薬剤増加などもあり比率上昇
1日当たり入院患者数（人）	217.0	212.8	×	新型コロナ確保病床、常勤医師不在の科の増
1日当たり外来患者数（人）	435.0	425.8	×	常勤医師不在の科の増など
医師数（年度末人数）	57.0	58.0	○	
資金不足の額（百万円）	▲ 4,175	▲ 4,375	○	